

学校再編案について

（１）前提条件

- ・ 早急な議論が求められることから、以下の２点を検討の前提条件とする。

検討の前提条件
①緑丘中学校校区の小学校統合 緑丘中学校校区にある６つの小学校（上戸、飯田、直、若山、正院、蛸島）は「１校」に統合する。
②義務教育学校の存続 ９年一貫の義務教育学校は、市内全域で「最低１校」は必ず残す。

（２）再編パターン

- ・ 上記の前提を踏まえ、以下の３つの想定パターンをベースに再編の検討を行う。
- ・ 大きな論点は次の２点である。

論点１ 宝立小中学校（義務教育学校）をどうするか

論点２ みさき小学校と三崎中学校をどうするか

再編パターン	小学校の配置	中学校の配置	義務教育学校の配置	検証の方向性
【案Ａ】	１校 統合小 (155人)	１校 緑丘中 (117人)	２校 宝立、大谷 (18人)(4人)	小・中は全域で１校に集約しつつ、義務教育学校の２校を残すことで、集団教育と地域バランスの双方に配慮する案。
【案Ｂ】	１校 統合小 (163人)	１校 緑丘中 (127人)	１校 大谷 (4人)	複式学級を解消し、集団教育の効果を最優先とする案。 大谷小中学校は、特色のある教育を行う。
【案Ｃ】	２校 統合小 (135人) みさき (20人)	１校 緑丘中 (117人)	２校 宝立、大谷 (18人)(4人)	低年齢児の通学負担軽減と地域コミュニティの安心感を最優先とする案。

＊（ ）は令和１２年度時点での推計児童生徒数